



PROJECT

開発途上国が抱える 廃棄物・水・大気の問題解決に協力

持続可能な廃棄物管理を目指す

JICAは環境管理分野のグローバル・アジェンダとして「JICAクリーン・シティ・イニシアティブ」を掲げ、廃棄物管理、水質汚濁・大気汚染対策などを通じて「きれいな街」づくりに協力しています。

その一つとして、廃棄物管理の取り組みを中東のパレスチナで行っています。

パレスチナでは、自治体の廃棄物収集サービスが不足していたため、ごみの野焼きやオープンダンプ(野積み)が問題になっていました。JICAは2005年から廃棄物管理を担う行政の能力強化を行うとともに、ごみの収集車や処分場の重機などの機材を整備しました。

また、2020年7月から開始した「廃棄物管理能力向上プロジェクトフェーズ3」

では、パレスチナの限られた土地で持続的な廃棄物管理を実現するため、ごみの分別と減量化、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進に加え、感染性廃棄物の適正管理にも取り組んでいます。

世界遺産を生かしグリーン成長を促進

色鮮やかな海に奇岩が浮かぶベトナムの世界遺産ハロン湾では、水質汚濁対策に関連した取り組みを進めています。

ハロン湾は、急激な工業化や都市化に伴う水質の悪化が深刻な問題となっていました。JICAは日本の琵琶湖の水環境を改善させた「琵琶湖モデル」を踏まえ、1990年代から水質改善に協力。2016年に自然環境を守りながら経済成長も推進する「グリーン成長」を目指すプロジェクトを開始しました。プロジェクトでは、企業などの環境管理への取り組みを資金面で支援する環境保護基金の貸付上限額や対象の拡大、エコツーリズムの推進のほか、こうした取り組みの指針となるグリーン成長白書の作成などを行いました。

さらに2021年4月から「クアンニン省におけるグリーン成長アドバイザー」として琵琶湖モデルの専門家を派遣。グリーン成長を市民にわかりやすく伝え、幅広い住民参加を促す政策の提案や啓発活動などに取り組んでいます。



ベトナム：ハロン湾の世界遺産エリア内にあるティトップ島で日本製の浄化槽の維持管理状況の説明を受けるJICA関係者

DATA

廃棄物管理能力向上プロジェクトフェーズ3

対象国
パレスチナ

協力期間
2020年7月-2023年3月

クアンニン省における グリーン成長アドバイザー

対象国
ベトナム

協力期間
2021年4月-2023年4月

VOICE

プロジェクトがベトナムのメディアで注目されています



JICA専門家
公益財団法人淡海環境保全財団/元滋賀県職員 藤村俊樹さん

グリーン成長の持続的な発展・拡大には、住民や企業をはじめとする民間セクターの参画が重要です。そのための普及啓発セミナーを省内の各地で行っています。その様子が多くのメディアで取り上げられ、町を歩くと「テレビで見たよ!」と言われることが増えました。気恥ずかしいですが、これもプロジェクトの大きな成果の一つです。